

事後評価報告書(日仏研究交流)

1. 研究課題名:「フローサイトメトリ分離細胞の全ゲノム増幅に基づく非培養海産微細藻のメタゲノムと分類」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター
主任研究員 河地 正伸

2-2. フランス側研究代表者:パリ第6大学 CNRS ロスコフ臨海実験所 UMR7144
第1級研究ディレクター Daniel Vaultot

3. 総合評価:(B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

フローサイトメトリによる微生物細胞の分離とゲノム解析という極めて先端的な課題に取り組み、その基礎的な技術的確立を狙った研究で、今後、海洋微生物群集の多様性研究に大きく貢献することが期待できる。また、カルチャーコレクションへの登録は地味ながら重要な成果である。しかしながら、当初の目的であった単一細胞の分離と遺伝子解析という具体的な目標までは到達しておらず、例えば凍結保存技術などの関連的技術の検討に留まっている点が残念である。

(2)交流成果の評価について

日仏の研究グループがワークショップなどを通じてかなり密な議論と検討を重ね、それぞれの強みを活かしながら進めた研究で、交流成果としては極めて高いと判断できる。しかしながら、大学院生を含む若手の参画が不十分であり、人材育成の点では今後の課題が残った。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

プロジェクトの狙いは明確であり、かなり緊密な議論と共同研究を展開したが、当初の目標である単一細胞からの全ゲノム増幅については、報告書に成果の具体的な記述がなく、どこまで到達しているのかは必ずしも明確でない点が惜まれる。この成果を基礎に、今後どのように海洋単細胞微生物群の多様性解析に結び付けていくのかが今後の課題であろう。